

会 議 等 結 果 報 告 書			
会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	285
		決裁期日	平成30年2月7日
名 称	住民会長との町政懇談会		
日 時	平成30年1月29日（月） 午後1時～午後2時40分		
場 所	消防2階大会議室		
出席者	住民会長24名（別紙） 理事者：向山町長・石田副町長・服部教育長 課長・主幹職：藤田会計課長他11名（別紙） 町民生活課自治推進班：野寺主幹、船引主査 傍聴者：1名		
内 容	<p>司会：石田副町長 前段に副町長就任の挨拶あり</p> <p>○向山町長挨拶</p> <p>ご多用中、住民会長の皆様におきましては町政懇談会に参加していただきお礼申し上げます。</p> <p>新年を迎え、町の行事が執り行われる中、住民会長の皆様には各種参加いただき感謝を申し上げます。平成30年度の予算編成では地域財政が苦しい中、町民へのサービス向上につながるよう予算を立てている。平成29年度も大詰めを迎え、2月には本日の議題でもある防災訓練も実施するところで、先日、草津で火山が噴火し、他人事とは思えない事象も発生している中、火山と共生するまちとして精度を上げた訓練にしたい。来年度の一大事業として第6次総合計画があり、策定に当たっては住民会長の皆様からのご意見もいただいたことから町民一人ひとりの意見を反映したい。今回の町政懇談会では有意義な時間となりますようお願いして挨拶に代えさせていただきます。</p> <p>【議事】</p> <p>議題1 十勝岳噴火総合防災訓練の実施について</p> <p>説明者： 総務課長より資料1に基づき説明。</p> <p>防災訓練は2月21～22日で実施。住民が参加する避難訓練は22日に実施。また自主防災組織については9住民会が訓練を実施する。</p> <p>今回は、現地偵察訓練を見直し、住民会・町内会長宅や町職員の住宅の表札を確認し、未避難者がいないか確認する訓練を実施する（前回は決められた地域の住宅の表札を1軒ずつ確認）。</p>		

議題2 第6次上富良野町総合計画の策定状況について

説明者： 企画商工観光課長より資料2に基づき説明。

議題3 「泥流地帯」映画化に向けた取り組み経過について

説明者： 企画商工観光課長より資料3に基づき説明

泥流災害から90年、上富良野開基120年を機に復興の歴史を後世に伝えるために「泥流地帯」の映画化に向けて取り組みを実施。三浦綾子記念文学館を通じて映画制作会社と折衝中。町では制作のための支援体制を整えるとともに、町内の各団体にも協力いただいて「泥流地帯」映画化を進める会を設立した。この事業については国が進める地域再生計画として認定を受け、「企業版ふるさと納税」を財源の一部として充当できるようになった。

質問：泥流地帯の映画化にあたって、私は災害時の様子を先祖から聞いており、町内の地域でも被災された方の子孫が当時の様子を聞いていると思う。暗い内容もあるが災害から立ち上がる姿は東北地方や熊本県で被災された方も励まされる映画になると思う。

映画を制作するにあたって予算はどのくらいかかるのか。また、予算については企業版ふるさと納税ですべて賄うのか、国から補助金などが付くのか。(島津住民会長)

回答：制作側には物語が持つ「思い」がよく伝わるように作ってもらいたい。予算については採算が合うようにと考えているが、地域再生計画の概算額や地元の支援体制が定まっていないため金額については算出されていない。他市町村の事例も参考にしたい。

企業版ふるさと納税は予算の一部に組み入れられる。できればすべて寄付で制作できれば最良なので、企業に向けてPRを実施する。(企画商工観光課長)

質問：泥流地帯の映画化については町民にまだまだ知られていない。いつから始まったのか。ホームページなどで告知は行っているのか。

また、映画化が終わった後の想定はしているのか。(東中住民会長)

回答：昨年の新年交礼会で町長の思いとして、映画化の話が述べられている。三浦綾子作品を本町で制作することは有意義であり、被災地も元気にできれば大変すばらしいと思う。過去に「氷点」などの作品のドラマ化や映画化に携わった経験もある三浦綾子記念文学館へ相談し、映画化実現に向けて制作会社を紹介していただいた経過がある。(副町長)

地域経済への波及のため、ロケ地を見学する方が町内外からも来ることも想定されるので、このことを生かせるような対応をしたい。この事業については、町民に向けて実施状況などを広く広報していく。(企画商工観光課)

一昨年に十勝岳噴火 90 年、昨年は上富良野 120 年を迎えた。大災害から立ち上がった先人の DNA が今日の上富良野町をつくる力の源だという強い思いがあり、町が変わっていく中で噴火の歴史を風化させず、歴史を残すためにも映画化を実施する。事業については「映画化を進める会」が主体となり取り進めて行く。町民の皆様にもご理解いただきたい。(町長)

質問：実際に泥流が流れた場所をロケ地とするのか？ どこで撮影するのか？ ロケ終了後セットはそのまま残るのか。(日の出住民会長)

回答：泥流被害にあった場所が、撮影に最適な景色かはわからないため、制作会社と調整する。ロケ地やセットは観光施設として活用したい。(企画商工観光課)

質問：町の持ち出しはいくらになるのか。(南町住民会長)

回答：現在未定。町では制作会社が撮影などをする際に応援することを主としており、セットの再利用計画やキャストと町民の交流事業、ロケ地での手伝いなどで必要な経費を町として支出する。映画の制作費を支出するものではない。

議題 4 十勝岳ジオパーク構想取り組みの経過について

説明者： 企画商工観光課長より資料 4 に基づき説明。

認定に向けてより充実した活動を実施するため、住民会長にも各種事業に参加していただく機会もあることから協力を依頼。

町長からは、今までの活動に際して住民会長へ感謝のことばが述べられたほか、今回は認定が見送られたが、プレゼンでは審査員に好感触で、十勝岳の魅力は高価値との評価を受けたことを挙げ、地域の活性化に向けた土台作りと、事業体制の明確化が課題であることから、改めて認定に向け町民の協力を依頼した。

議題 5 国民健康保険制度について

議題 6 平成 30 年度住民自治活動推進交付金の算定について

議題 7 平成 30 年度住民会各種委員等の推薦について

説明者： 町民生活課長より資料 5、6、7 に基づき説明。

住民自治活動推進交付金については 3 月の議会を経て各住民会へお知らせする。

その他 1 コミュニティスクールについて

説明者： 教育振興課長より説明。

その他 2 交通安全町民大会 2018 の開催について

その他 3 まちづくりフォーラムの開催について

説明者： 町民生活課長よりそれぞれの事業について告知し、出席をお願いした。

◎このほかにも、総務課長より前回説明された投票区の見直しについて各住民会より意見がないか確認。意見があれば総務課まで連絡いただくものとした。

(14 時 00 分)

○意見交換

東中住民会長

- ・東 11 線北 20 号(東中ダムのそば)の道路から水が湧いて困っている。
- ・平成 29 年 4 月から話しているが東中小学校を探す車用の案内看板の設置はどうなっているか。

建設水道課長： 道路改修については事業計画の一つとして随時計画するが、時期については未定となっている。

教育振興課長： 案内看板については準備を進めており、看板を発注中。

日の出住民会長： 以前、雪捨て場として空地などの提供を呼び掛けていたが現在はどうか。また、十勝岳の地熱を使って雪を溶かしたり、ビニールハウスの暖房設備として活用できないか。

町民生活課長： 新エネルギーとして地熱の活用については北海道立総合研究機構と研究中。地熱はすでに上富良野小学校校舎のヒートポンプによる暖房設備として活用し検証を実施中。今後は公共施設で試験した結果が出た際にはお知らせしていきたい。

建設水道課長： 雪捨て場については市街地近くにあるのが理想だが、上富良野高校や道路用地などの空きスペースに雪を置いたところ、好ましくないとの意見があった。現在は旭野地区の雪捨て場に捨てるようお願いしている。

里仁住民会長： 地域に移住者が多いため、除雪機を持っておらず公民館分館の除雪当番ができない人がいる。中山間地域等直接支払制度等を活用してはいるが限界で、業者に除雪を頼むと費用は高い。町からの公民館分館管理費で対応するか、町で除雪業者をお願いすることができないか。

教育振興課長： 公民館分館の管理については、住民会をお願いしているところであり、他分館でも同様に管理をお願いしている。除雪費用が掛かるのは分かるが、今後、地域でどのように運営するか検討してほしい。管理費については今後検討が必要だと考えている。

住吉住民会長： 役場庁舎の耐震化はされていないが、今後はどうなるか。熊本地震の際には地震で庁舎がつぶれたところもあると聞く。本町の防災拠点でもあるので検討してほしい。

副町長： 築42年が経過しており耐震基準は満たされていないが、改修費用が多く掛かることから改修していない。災害対策本部としての機能もあるので、検討課題の一つとして受け止める。

静修住民会長： 江幌小学校が廃校になり利用者の募集が行われているが、小学校の教員住宅は使用しないと傷むので、条件付きで住宅として貸し出しできないか。

総務課長： 江幌小学校の利用については随時募集中。有効利用するためにも使用したい場合は総務課へ相談してほしい。

日新住民会長： 昨年12月に道道美沢線で起きた観光バス事故について、北海道新聞では中富良野町、富良野市、美瑛町の病院に搬送されたと書かれていた。町立病院には搬送されなかったのか、どういう体制だったのか、また、大きな事故に対応する訓練はされているのか。

町立病院事務長： 町立病院には9人搬送され、けがの処置をしている。事故当時、消防からの第一報で各病院での受け入れ人数を調整。事故にあった35人は軽傷であったため9人は町立病院で、その他は町外の病院でけがの処置をした。

○向山町長挨拶

本日は議題について熱心にご意見をいただきお礼申し上げます。

住民の最前線で活躍されている住民会長の皆様から貴重なご意見をいただいたと認識し、町づくりのために必ず前進していきたいと考えている。

これから、平成29年度の総仕上げに入ることとなり、住民会長の皆様にも協力をお願いしたい。

《閉会》

(14時40分)

町政懇談会終了後、佐川議員より2月14日に行われる議員懇談会の周知が各住民会長へ行われたほか、消防団詰所で15時から地域コミュニティ活性化会議を実施した。